「同窓会への寄付金のお願いについて」

会員の皆さまには、日頃から同窓会活動に厚いご支援とご協力をいただき役員一同、日感謝の気持ちでいっぱいです。

そんな皆さんの気持ちを思いますと、今般は非常に残念な結果になり、皆さまを代弁出来なかった我々役員の力不足を猛省するとともに「無念」の一言に尽きます。

経過、取り組みなど多々ありますが、結果が全てであり残念さと後悔がつきまといます。

また、今までの同窓会のあり方、これからの同窓会運営を考えるた時、いろいろと思うところがおありだと推察いたします。

皆さまも年齢を重ねることにより帰着するところは、小学校・中学校・高等学校・大学の同窓会の存在ではないでしょうか。たとえ、大学の存続がなくなり、学び舎やキャンパスが消滅しても我々の心の中にはしっかりとサピエンチア精神が宿っているものと確信しております。

悲しくも寂しさや悔しさでいっぱいではありますが、同じ学び舎で学生生活を過ごし、記憶に残っている限り、皆がつどい、分かち合える場（同窓会）を未来永劫に存続していきたいと考えております。その為にも今後、尼崎市とヨゼフ会（百合学院）、ならびに近隣の人々との話し合いを含め、我々のメモリアルな場所を確保できるよう働きかけていきたいと思います。

ご理解いただいているとは思いますが、現在の財政状況、今後の運営を考えますと存続するための資金が必要になってまいります。今後、連絡方法、H・C・D開催、ホームページの充実、会報や連絡事項の発送など資金的に十分とは言えず、皆様のご支援が必要になってまいります。

どうか現状をご理解いただき、今後の運営にもご賛同願い、懐の許す限りのご寄付で結構ですのでよろしくお願いいたします。

♪ホームページ・リニューアルのお知らせと今後の連絡先♪

同サピエンチア会（英知大学・聖トマス大学同窓会）事務局は、９月６日（日）に教授棟１階よりチャペルの横に引っ越し、９月３０日を以て同窓会の電話やFAX は使用できなくなります。そこで、以前よりお知らせしていますように、今後は会報やお知らせなどは同窓会ホームページとメールのみとさせていただきます。去る７月 24 日から 30 日までのホームカミング・ウィークに参加され、大学の受付あるいは学生会館の同窓会受付でメールアドレスをご記入いただいた方には、メールにてご案内致します。携帯電話のアドレスをご登録される場合は、jimukyoku@sapientiakai.com からのメールを受信許可にしてください。

さらに、１０月末頃を目処にホームページをリニューアルし、皆様の連絡先をご入力いただける画面を作成しますので、メールアドレスをお知らせ頂いていない方は、画面からご登録をお願い致します。

なお、インターネット環境がない方で郵送を希望される方は、郵便（ 委任状）あるいは電話で住所（ 郵便番号を添えて）、氏名、電話番号、卒業年度、学科をお知らせください。

連絡先：〒661-8530　兵庫県尼崎市若王寺２丁目 18- 番１号
サピエンチア会（英知大学・聖トマス大学同窓会）
電　話：090-8658-0619（会長　藤本滝三　携帯電話）

♪お知らせ♪

皆様からの温かいご寄付により、「大学最後のミサ」の記念写真（タイトル入り）と想い出の大学記念ＤＶＤ(ホームカミング・ウィーク時に、学生会館で校歌を BGM に想い出の映像を編集し、放映していたもの)、キャンパス風景のポストカードを製作することができました。

ホームカミング・デイ当日、ご寄付のお礼の品としてさせていただきます。ホームカミング・デーに参加できない方については、発送致しますので詳細はホームページにてご確認ください。

ご寄付下さった皆様のお気持ちに心より感謝致します。

なお、頂きましたご寄付は主として同窓会運営に用い、使途については総会にて会計報告を致します。

編集後記

昨年発行しましたサピエンチア 25 号において紙媒体での発行が最後になるとご案内しておりました。

今回、大学側の計らいで急遽発行できるようになり、制作期間一週間というタイトなスケジュールの中で　なんとか発行まで漕ぎ着けました。そんな訳で誤字脱字はご容赦下さい。しかし、一回延びただけで次回からはホームページ掲載が基本となることは避けられないと思われます。

長きにわたり、卒業生との懸け橋になるべく、大学の情報をお届けし、ここ 10 年ぐらいは年一回の発行を続けてまいりました。その懸け橋となる一方の大学が無くなってしまいました。今後皆様にお届けする情報は、この若王寺の地においてカトリック精神に基づいた学びのユニークな大学があったこと、そしてその精神が地域に根ざし、受け継がれていく、そんな姿を卒業生にお届けできればいいかと考えております。

そして、来年もこの園田、若王寺の地で卒業生が集まれることを願っております。

サピエンチア会へのご連絡は
右記の方法でお願い致します

http://www.sapientiakai.com
http:facebook.com/sapientiakai
Email:jimukyoku@sapientiakai.com

訃　報

サピエンチア会（同窓会）の監査役を永きにわたってお願いをして参りました 1970 年度英文科卒業の稲田新平様が、最後のミサの日にお亡くなりに成られました。英知大学をこよなく愛されて来られました故人とのご縁を感じずにはおれません。

ここに生前のご厚誼にお礼と心よりのご冥福をお祈り申し上げます。

同窓会役員一同

発行：サピエンチア会（英知大学・聖トマス大学同窓会）　発行責任者/藤本滝三　編集/サピエンチア会　2015年9月

最後のミサに想う・・・

文学部イスパニア文学科
1973年卒
サピエンチア会
会長　藤本　滝三

今回のミサは学校法人英知学院が「ホームカミング　ウイーク」を開催し　そのウイークの中で、同窓会主催のミサを開催しようと役員全員一致で決定を致しました。

前田万葉大司教はじめ最も英知にゆかりの深い松本信愛神父、英知大学の卒業生でもあります高畠政行神父、ほか２名の司祭の方々により学生会館の２階会場では用意致しました椅子が足らず立ったままの方が出るほどの参加者の中、厳かに開催されました。

ご来賓には大阪信愛女学院から校長を始め６名の先生方の、そして S. ライアン元学長、同じく大井静雄元学長のご出席を賜りました。

この追悼ミサには松本神父の英知大学在籍 41 年間を振り返られながら今日のミサに至るまでを短いお言葉でしたが感銘を受けるお説教のお言葉を頂戴いたしました。

共同祈願には英文科７０年卒業の松本徹夫氏、同じく英文科 71 年卒業の村瀬敬子氏、私、同窓会会長として西文科卒業の藤本滝三の３名によって読み上げられました。ミサ終了と同時に石垣博子先生のオルガン演奏により全員で校歌を大きな声で斉唱し、同窓会長として「大学が無くなっても英知大学同窓会はこれからも継続をしていきます！」との言葉で締めさせて頂きました。

最後に記念の集合写真の撮影に入り校旗、大学の看板、お花などを交え歓声の中最後のミサを終える事が出来ました。

暑い中、ご遠方よりお越しいただいた方もおられました。本当にありがとうございました。

我々同窓会は、これからもこの跡地に英知大学、聖トマス大学の存在した証として尼崎市と話し合いをし、メモリアルコーナー兼同窓会室を旧チャペル横に設置する事が決定致しました。それらの施設を維持・継続をする為に　我々自身も何をしなくては成らないのかを考えていきたいと思います。

今日が最後ではなく、５２年間お世話に成ってきた地域の皆様方、フィオーレの方々、グランドゴルフの方々と手を携えながら、今日からまたこの地で新しい同窓会のスタートと考えています。松本神父のお言葉にも有りました「サピエンチア・ファミリー」のスタートです！

2015 年 7 月 25 日（土）ミサの後　出席者全員にて記念写真

HOMECOMING WEEK　Jul. 24 ～ 30

学生会館１階では懐かしい記念品や、写真、アルバム、機関誌等が展示されていました

「ホームカミング・ウィークに参加して」―― 雑感

“It’s no use crying over spilt milk.”まさか、この「覆水盆に返らず」という諺が、大学がこのようになって、元には戻らない以上、過去をくよくよ嘆くより、今後に向けての方策を考えることが大事になった状況で、身を持って理解できる諺になるとは。しかし、私はこの諺の後段として、“ The question is what to do with the spilt milk.”（問題はその零れたミルクをどうするかである）を付け加えたい。

法人が、大学を廃校にするに際して、英知大学と聖トマス大学の卒業生を対象に、「大学の最後の姿」を見納める？機会として、去る７月 24 日（金）から 30 日（木）までの１週間を提供するという催しであった。私はその１週間の内４日間参加して、自分が属していた英語英文学科、多文化共生学科のみならず仏文、西文、国際文化学科の卒業生たちとも話が出来たのはちょっとしたクロスカルチュラルな経験であった。それよりも彼らの大学生活に纏わる話はどれも彼ら一人ひとりにとって貴重な想い出となっていることに、嬉しい気持ちを覚えた。無くなる母校に集う卒業生たちが何とも愛おしくさえ思われたのである。

大学は無くなるとしても、50 年という歴史を持つ大学で学んだ卒業生たちは現に存在している。同窓会も英知大学と聖トマス大学の卒業生を包括してサピエンチア会として存続し続けることを既に決定している。（私も昨年７月からその特別会員として承認を受けた。）では、サピエンチア会はこれから何をすべきなのだろうか。そのような気持ちを抱きながら、私は７月 25 日に学生会館の２階で行われた前田万葉大司教主式の「最後のミサ」に参列した。大司教が言われた、いかなる逆境においても希望を持つことが肝要である、という言葉は意味深くまた示唆豊かであり、大いに鼓舞された。

ミサに参列したことが切っ掛けとなって、私は翌日曜日にも大学に出向き、懐かしい卒業生との再会を楽しんだ。驚いたことに、私には全く記憶になかったことだが、F 君みずから、私の英語の試験で彼がカンニングしたのを私に見つかって、彼の答案を私が破いた、と言う。そして、その彼が今では大阪府立高校の英語教師として頑張っていると言う。また、愛媛から遥々やって来てくれた、苦労を重ねてやっと小学校の教員になり、英語も教えていると言う、かつての女子学生の話も、何とも嬉しいことであった。

当初は、大学が廃校になってしまったことに一教員として全く無力であったことを申し訳なく思い、卒業生たちにどのように接してよいのか、顔すら合すことが出来ないと思っていた。しかし、嬉しいことにそれは取り越し苦労だった。来てくれた卒業生たちが、大学が無くなることに淋しさを抱きつつも、笑顔で昔の想い出を語ってくれる話を聞いているうちに、彼らのおおらかな母校愛を感じて、私のそれまでの躊躇逡巡がいつの間にか無くなっていた。母校が無くなるのは淋しいが、英知大学で、あるいは聖トマス大学で学んだ事実は消えないと彼らは口を揃えて言う。心の中にも頭の中にも英知は存在し続けるという多少感傷的ではあるがその思いに浸る自分を見出し実に楽しいひと時だった。

その後もかつて英知大学そして聖トマス大学で一緒に学んだ卒業生に会えることを待望しながら、学生会館の北入口に設けられた同窓会のテーブルに向ってまるでそこが自分に指定された場所であるかのように座っていた。それは、私にもともと「最後の大学の姿」を見にやって来る、かつて一緒に学んだ卒業生たちと都合がつく限り会う機会を持たなければならないという償いのような気持があったからだと思う。と同時に、これまでの英知大学・聖トマス大学の同窓会がどうあるべきかを考えなくてはならない時だと思っていた。広島から？名古屋への出張の途中で態々立ち寄ってくれた、かつての男子学生と話した。会社の昼休みを利用して大学を覗いてくれたかつての女子学生にも会った。ますます、これからの同窓会が大事であるという考えが募って来た。

幸いにして、今後、大学の敷地を受け継ぐ尼崎市と聖ヨゼフ会のご厚意を受けて、同窓会の活動を継続して行くことが出来るようではあるが、しかし、今までのような年一回のホームカミング・デイ開催だけでは存在意義は極めて小さい。年間を通して、地域に貢献できる同窓会企画なるものを生み出し、地域の活性化に役立つ同窓会でなければならない。

かつて大学募集停止の発表があってすぐに地域の人たちが「ほっとけん！」と立ち上げって下さった時は、大学がいかに地域の人々に意味があったかを有り難く思い知らされた。これからは、かつての大学だけの閉ざされた同窓会ではなく地域の人たちと一緒になって、開かれた共同体を創る一役を担う同窓会にならなければならない。私も微力ながら特別会員として同窓会の一員の役割を果たしたいと考えている。

井田規文

２０１５年７月２５日の「ミサの説教」（要約）　松本信愛

今日のミサは、私個人としても、特別な思いでささげています。

大学がこのような状況になり、いろいろなことを振り返ると、残念な気持ちと後悔の気持ちで一杯になります。しかし、今更、そのような過去のことを言っても事実が消えるわけではないことも十分に承知しています。ただ、そのことは、過去のマイナスの面が消えないのと同様に、過去のプラスの面、すなわち、いろいろな人との出会い、多くの学び、素晴らしい思い出なども、決して消えないものであることを意味しています。

例えば、ある家族で、親子３代が一緒に暮らしていたその家を去って、別々に暮らすようになったとしても「家族」としての絆がなくなるはずもなく、むしろ目に見えない結びつきは、ますます強くなることが考えられます。同じように、私たちも、今後は「サピエンチア・ファミリー」としてますます強いきずなで結ばれていくことを願っています。この「サピエンチア・ファミリー」のメンバーは、英知大学・聖トマス大学の卒業生を中心に、元の教職員や、すでに亡くなって天国にいる卒業生や教職員、また、在学中に亡くなった学生などから成ります。具体的には、同窓会という組織が中心になっていくことでしょうが、機会あるごとに「サピエンチア・ファミリー」のメンバーであることをお互いに意識していきたいと思います。

今日、私たちは、その「サピエンチア・ファミリー」のこの世にいるメンバーとして、すでにこの世を去ったメンバーのために追悼と感謝のミサを捧げています。このように、祈り合うという形での絆の表現は、カトリックの精神を建学の精神としていた私たちの一つの特徴です。今後とも、ますますこの絆が強められていきますように・・・

ホームカミング・デイ（ご案内）

今年も１１月３日にホームカミング・デイを開催することが決定しました。大学が解散し私たちの戻るところはなくなったと残念で寂しい気持ちをもった卒業生の方々は決して少なくないと思います。大学はなくなりますが、尼崎市と聖ヨゼフ会のご厚意と快諾をいただき、今年もキャンパスでのホームカミング・デイを開催できることとなりました。感謝の何物でもありません。卒業生を代表しお礼を申し上げます。

さて、卒業生の皆様今年の開催は、『サピエンチア・ファミリー・フェスティバル（仮称）』として地域の皆様にも呼びかけをし、フィオーレ・チーム（少年サッカー）、グラウンド・ゴルフ・グループ、また地域の諸団体の皆さんにもご協力をいただくようにお願いをしております。この取り組みが、我々同窓会を含め今後地域への貢献をも模索し開催され、目指すものになれば幸いと考えております。聖トマス大学（英知大学）の施設は当面現状をとどめます。

７月に開催されましたホームカミング・ウィークで約 600 人の卒業生が大学に戻ってこられました。今回は右記行事を開催し同窓生の親睦を図ります。詳細をご確認いただき、皆様万障繰り合わせの上、是非今回のホームカミング・デイにご参加下さい。

昨年のホームカミング・デイ

大学をなんとかしたい！
そんな思いのフォーラムでした

コロクトリュームにて
総会と HCD を行う

HOMECOMING DAY

開催日：2015 年 11 月 3 日（火曜日・文化の日）
場所：　旧聖トマス大学（元英知大学）校内

Program

物故者追悼ミサ　　：10：00 ～ 10：45
サピエンチア会総会 ：10：45 ～ 12：00
サピエンチア・ファミリー・フェステバル（仮称）
　　：12：00 ～ 17：00（予定）

卒業生演者（予定）

大上留利子さん

扇敏子クアルテット

その他数名の卒業生と
出演交渉中

乞うご期待！

大切なご連絡

★部室開放　（開放時間：12：00 ～ 16：00（予定））
クラブ部室開放並びに思い出の備品の引き取りを行います（当日限り）。引き取りのない備品は処分されますのでご注意ください。備品の引き取りに関しましては OB、OG それぞれのクラブで話し合いを行い参加ください。合わせて当日までに引き取り責任者名を同窓会へその旨をお知らせください。（連絡先参照）

★メモリアルコーナーの設置
尼崎市に申し入れしておりましたメモリアルコーナー、事務局の設置が旧チャペル横に決定致しました。校旗やクラブの活動成果の表彰状などをメモリアルコーナーにて展示保管できればと考えております。

★母校応援団の団旗と大太鼓の保管
11 月 3 日には団旗を掲揚いたします。
今後も同窓会で団旗と大太鼓は保管していく予定です。思い出の深い団旗を見に来てください。そして旧友との旧交を温める場となれば幸いです。